

琴似本通の歴史

昭和30年代



昭和30年前半の琴似駅前付近。道幅が狭く、舗装されていない（S30年代前半頃）/吉川氏提供

琴似本通は、明治8年（1875年）の屯田兵入植にはじまり、明治15年（1880年）の官営幌内鉄道の簡易停車場（現在のJR琴似駅）の開通などのインフラ整備をうけながら、時代とともに発展してきました。

昭和30年（1955年）には、琴似町は札幌市と合併することとなりましたが、この年は琴似駅前が火事（琴似大火）に見舞われるなど受難の年でもありました。



（写真左）拡張舗装工事の様子、（写真中央・右）工事完成パレード（S35頃）/吉川氏提供

昭和30年（1955年）の琴似大火を機に、琴似本通の拡張舗装工事が行われることとなり、昭和35年（1960年）に工事完了。街並みは整備され、現在に続く琴似本通が出来上がりました。